

はじめに

今年はいよいよ「受験」です！！

高校への進学を考えた場合、中学の授業を通して基礎・基本を確実に身につけることとあわせて、入学試験を「突破する力」をどのようにつけていくかが重要になります。

「受験勉強」の仕方にはいろいろな方法がありますが、要は、自分にあった勉強方法をできるだけ早く見つけ、学習計画を作成し、それを実行に移すことです。

よく使われる言葉ですが、「継続は力なり」と言われるように、粘り強く続けていくことが大事です。その積み上げが力となって実を結ぶのです。

「学問に王道なし」とも言われるように、学習には近道はありません。受験勉強にも、これだけをやっておけばそれでよいという安易な方法はありません。勉強したところだけが入試に出題されれば一番よい訳ですが、言うまでもなく、そんなことは絶対にあり得ません。要領よく、簡単に合格できる方法をあれこれと考えるのはまったく無意味です。合格に必要な「学力」を地道に身につけていくしか方法はないのです。

とはいっても、ただ単にがむしゃらにするのではなく、効率的に受験勉強を進める工夫と作戦が必要です。そこで、先生達はその手助けとなるようにアドバイスをおくります。これを参考にして自分にあった勉強方法を見つけ出し、夏休みにしっかり勉強して下さい。

国 語

国語の力をつけよう

国語は、すべての教科の基本となります。漢字がわからなければ本は読めません。また、指示語や接続語の意味がわからなければ、文章を理解することができません。その基本の力をつけるのが国語です。

次の5つのことを重点をおいて勉強しましょう。

1 思考する力をつけよう！

授業を大切にする（発問に対して、必ず自分なりの答えを持つこと）。

問題集などを使って、問題を多く解く。

わからない言葉があれば、辞書をひく。

本や新聞をよく読む。

（コラムなどを読み、あらすじをまとめることも力になります。）

2 表現する力をつけよう！

どんな場面でも自分の感想を持ち、自分の言葉で書けるようにする。

辞書を活用し、正しい言葉を使えるようにする。

3 文法力を身につけよう！

品詞分類と用言の活用をしっかり復習する。

（特に2年生で習った内容は大切です。）

授業で用いた問題集やプリントをもう一度やり直す。

（わからないところは先生や友達に聞いて理解できるようにしておく。）

4 古文を理解しよう！

古典文法について

・問題集などで問題を多く解き、古文に慣れる。

・主語や助詞を補い、文章を読むようにする。

・係り結びや敬語表現を理解しておく。

古語について

・現代語と意味の異なる単語や、現代語には存在しない単語を中心に覚える。

古典の常識

- ・ 資料集やノートなどを見て覚える。(古文を数多く読むことで身に付く)

国語の力を高めるためには、何よりも数多くの文章を読むこと、そして、語彙量を増やすことが大切です。

卒業生の中には、「新聞のコラムをノートに書き、感想を書くことがすごく自分の力になった」という人もいました。これは、文章を書く力や語彙量を増やすことにとても役立ちます。また、時事ネタも含まれているので、現在の日本の情勢などを知ることできます。

上記のポイントをしっかりやれば、必ずあなたに国語の力がつきなます。できることから始めていきましょう！！頑張ってください。

社 会

授業中、熱心に取り組むことが基本！ その上で、定期テスト・入試対策として

A 頭を整理する (内容を理解する)

分からない内容をまとめたり、調べたりして、
頭を整理する。

- ・ノート
- ・教科書
- ・参考書

B 頭に入れる (内容を暗記する)

整理した内容をしっかりと反復
して頭に入れる。

- ・書きながら
- ・読みながら
- ・調べることを通して
- ・単語カードにして

C 頭を試す 理解できていない内容を知る

問題にチャレンジし、頭に入ったか
どうか試す。

- ・問題集
- ・過去の定期テスト
- ・授業中のドリル
- ・過去の入試問題・広域テスト

- * A～Cのどこから始めてもいいですが、満点になるまで繰り返すことが大切です。
- * Aだけで終わらない。(まとめるのに時間をかけた割に、頭に残らない人が多い。)

数 学

1, はじめに

高校入試は、中学3年間の総合的な力をみるものですから、3年間の内容を全て学習しておくが必要になってきます。しかし、入試問題を分析してみると、ポイントがいくつかあることが分かります。そのポイントを押さえた学習をすれば短期間でも効果を上げることができるのです。

2, 学習方法

(1) 入試問題の分類

基本的な計算問題

正負の数の計算、 $\sqrt{\quad}$ 計算、文字の式、連立方程式、因数分解など

応用発展的な問題

関数、平面図形、三平方の定理、相似、円、空間図形など

新しい傾向の問題

数の並び方の問題など

(2) 学習方法

基本的な計算問題

基本的な計算は必ず出題されるので、それらを着実にやることが基礎アップの重要なポイントです。では、どのように学習すれば計算問題ができるようになるのでしょうか。次の問題は、ある年の公立高校の入試問題です。

A $(-6)^2 \div 9 - (5 - 8) \times 4$

B $3\sqrt{2} \times \sqrt{6} - \frac{15}{\sqrt{3}}$

C $6\left(\frac{a}{3} - b\right) - (5a - 8b)$

D 連立方程式 $\begin{cases} 2x - 3y = 16 \\ x + 2y = 1 \end{cases}$ を解け。

E $a^2b - 6ab + 9b$ を因数分解せよ。

これらの問題を分析してポイントをひろいだしてみましょう。

A このような正負の数の計算は必ず出題されています。

- ・ポイント1...計算の順番 () 中の計算、指数(2乗など)の計算
×、÷の計算 +、-の計算

- ・ポイント2... $(-6)^2$ と -6^2 の違いに注意

$$(-6)^2 = (-6) \times (-6) = 36 \quad -6^2 = -(6 \times 6) = -36$$

B の計算は必ずと言っていいほど出題されます。

- ・分母に のつかない形に式を変形させたり、 $\sqrt{12} = 2\sqrt{3}$ と変形し加減をします。

C 文字の計算もよく出題されています。

- ・分数を含んだ多項式になっているパターンが多いです。

D 連立方程式もよく出題されます。

- ・最近では係数が整数の問題が多いですが、次の様な係数が小数や分数になっている問題も練習しておきましょう。

$$\begin{cases} 0.5x - 0.3y = 1 \\ \frac{1}{3}x - y = \frac{2}{3} \end{cases}$$

E 因数分解もよく出題されます。

- ・共通因数を取り出す、公式を使う、その両方で因数分解をする等の問題を練習しておきましょう。

その他、一次方程式、二次方程式、展開、式の変形等がありますので問題集で練習しておきましょう。

応用発展的な問題

関数、三平方の定理、円の性質、相似を中心に問題集でしっかり練習しておく必要があります。

新しい傾向の問題

いろいろなタイプの問題がありますが、過去に出題された公立高校の問題を繰り返して解いておきましょう。

3, 学習計画について

無理のない計画を立てる。

教科の割り振りを考える。

基本的な計算練習は少しでもいいから毎日やる。

問題集を計画的にやる。

4, 問題集や参考書について

(1) 問題集

基礎的なドリルを主としたものから教科書レベルの問題、受験用の問題集、むずかしい入試問題を集めたものなどいろいろあります。

自分にあった受験用の問題集を使うとよいでしょう。1つの内容の練習でA, B, Cの難易の三段階になっているので、これを上手に活用することが必要です。

(2) 参考書

問題集と同じようにいろいろなものがあるので自分にあったものを利用して下さい。

クイズとかパズル、数学の歴史などバラエティのある内容のものを選ぶと楽しいですね。

(3) 過去の入試問題

自分が受験する高校の入試問題をやっておきましょう。

5, おわりに

受験に向けての学習の方法などをまとめました。授業でより具体的に説明しますが、受験は、大事なことです、あまりに解法の技術だけにとらわれないで、『考え方』も重視した学習をするようにしましょう。それが将来自分の力を伸ばすこととなります。

理 科

～ 出題傾向のポイント～

学習方法

理科の問題は、問題に使われている例や文章に違いはあっても、基本的な内容や問われていることは同じです。ですから、まずは基本的な内容をしっかり覚えてしまいましょう。時間をかけて教科書やノートを熟読し、基本的な内容を身につけることが大切です。1年生の初めに学習したことから3年生の後半に学習したことまでまんべんなく出題されます。当然それだけの範囲を勉強しなければならないのですから、一夜漬けではできません。早くから計画を立てて、時間をかけて学習ができるようにしましょう。

基礎的な内容が身に付いたら、次は数多くの問題を解きましょう。問題集や参考書、過去問など、できる限り多くの問題を解き、出題される傾向をつかむことが大切です。第一分野、第二分野ともに、基本ができていれば解ける問題が出題されます。どのような形式の問題であっても解けるように、多くの問題のパターンを知ることが大切です。

では、実際にどのような学習をすればいいのか、その例を紹介します。

(1) 受験用問題集をうまく使う。

3年間の範囲をまんべんなく勉強するためには時間が必要です。が、なかなかそのような時間をかけることができないと思います。このような場合は受験用の問題集に書かれているまとめのページをしっかりと読み、今までに使っていたノートなどと照らし合わせて重要な部分に下線を引くなどして復習に利用します。時間のない人ほどページ数の少ない問題集を使うといいでしょう。

(2) いままでにやったテストなどを復習する。

テストでは、自分がしっかり覚えられている問題は正解でき、学習が足りない問題ではミスが出ているはずです。間違った箇所をしっかりと復習し、自分の弱点を補えるようにしましょう。

(3) とにかく問題を解く。

後は時間が許される限り、たくさん問題を解こう。問題を解いて、解いて、出題のパターンになれることが大切です。

その他、自分で工夫できることがあれば工夫し、自分にあった学習方法で学習を続けていくことが力を伸ばすことにつながります。

傾向と対策

生物、化学、物理、地学のそれぞれよりほぼ均等に出题されています。それぞれの分野の問題が単独で出题されるのが特徴であり、計算問題は比較的易しい。近年、表・グラフを読みとって計算するものが増加していますが、計算は暗算でもできる程度のものです。また、観察・実験の方法や結果をもとに基本的な知識や科学的な思考力を問う問題が多くなっています。解答用紙にグラフや力の矢印などの作図で答えるものが増えてきています。さらに、漢字で答えることを指示される問題もあります。

このことから、

- (1) 実験に関わる内容(実験方法、実験器具、実験上の注意、実験の結果や結果から考えられることなど)を重点的に学習しておこう。
- (2) グラフの書き方や作図の仕方は実際にやって覚えておこう。
- (3) 計算問題は、必ず出るので、圧力、密度、飽和水蒸気量、化学反応前後の物質の質量計算、速さなどの計算問題は必ず復習しておこう。
- (4) 重要語句の漢字は必ず書けるようにしておこう。

全体的にきちんとした文で出题されていますが、題意が読みとりにくい問題もあり、しっかりと文を読んで考えなければなりません。対策として、過去に出題された問題の練習をすることで、出題傾向がつかめると思います。

英 語

～ 受験勉強の仕方～

1. 語彙を増やす。

最低550語程度の単語（教科書の太字の単語）を覚えれば、受験にはある程度対応できます。3年生の教科書には、1年生から単語が載っています。覚えているかどうか確認するのに使えます。また、「原形・現在形・過去形・過去分詞・現在分詞」の表をしっかりと覚えること。毎日書いたり、読んだりして覚えていきましょう。

2. 基本文をしっかりと覚える。（文法）

1年生から習った文法をもう一度復習しましょう。1・2年生で使用したワークブック（問題集）をやり直したり、教科書の本文を音読し、訳せるか確認しましょう。また、教科書の本文の下に必ず、基本の表現が書いてあります。それらを暗唱し、書けるように練習すれば、後は単語の入れ替えでいろんな意味を持つ英文が作れます。

3. 長文に慣れる。

毎日英語の長文を読みましょう。教科書でもいいし、問題集の長文でもいいです。入試の長文はかなり長いので、その量に慣れなければなりません。

最初は意味のわからない単語があっても全部読み通してみましょう。完全に意味がわからなくても「だいたいこういうことが書かれている」ということがわかれば十分です。

（完全な日本語に訳そうとせず、文の前から前から意味を取っていき、内容のイメージをおおまかにつかむ。1つの文の中で中心となる「主語」と「動詞」をおさえながら、「誰（何）は・が」「～する」もしくは「～である」「～にいる」のかを読み取る。その後には、「どこで」「いつ」といった場所や時を表す言葉が多い。）

4. 会話文形式の問題について

対話文と絵や表などを見ながら解答する問題がよく出題されます。道のりをたずねたり、家（部屋）の中の様子についてのやりとりなどもよく出題されます。電話での会話や道案内、店での対応の場面など、教科書に載っている会話文をよく読んで、日常会話で使われる表現に慣れておきましょう。

5. 毎日の授業の学習を大切にす。

単語を覚える、文章を読む、聞き取りの練習をするなどは、日々の授業の内容にすべて含まれています。「学校ではせずに家でがんばる」ということでは力はつきません。授業を真剣に受けることが最大の受験勉強となります。それを忘れないようにしましょう。

お わ り に

これを読んでいる人の中には、「なぜ受験なんかせんなんのだろう」とか「受験勉強なんてしたくない」と受験を ~ やっかいなもの ~ と考えている人がいると思います。確かに受験勉強は、地道な努力と忍耐を伴うものです。でも、受験を逃げ腰でとらえるか、それとも自分の力を伸ばす絶好のチャンスと前向きにとらえるかでは、取り組みに大きな差ができ、後に残るものも大きく変わってきます。(学力はもちろん集中力や忍耐力そして時間を有効に使える能力もそうです)

~ 試験 ~ というものは、これから生きていく上で必ずついてきます。車の運転免許取得や資格免許取得のための試験、就職試験など、誰もが経験しなければなりません。受験で体験したこと、身につけたことは、その時にもきっと役に立つことでしょう。

この受験期は、一生の中でも学習を一番主体的にしかも集中的に取り組める時期でもあります。年齢が若く、脳の働きも一番さえるこの時期にどれだけのものを学習し、身につけたか、その努力は今後の君の人生に大きな財産として残ると思います。例えば、貯金と同じように貯蓄が多ければ多いほど、後でそれを活かしていけるのと同じです。年齢が進み、年を取るともう忘れる一方です。この中学生の時期に大いに学習に挑戦し、多くのことを吸収して行ってほしいと思います。